

名 称	鹿沼市小中学校再編計画策定に向けた意見交換会（板荷地区）について
日 時	令和 6 年 4 月 18 日（木）19 時 00 分～20 時 46 分
場 所	板荷コミュニティセンター
出席者	参加者：31 名
内容及び 結果等	【意見】 板荷の農地は、面積が小さく形も複雑なものが多いため、耕作放棄地にならないように、若い人からおじいちゃんおばあちゃんまで協力してきた。若い世代には、子どもが小学校に上がるタイミングで板荷に戻ってきて一緒に暮らしてもらうような声かけがあった気がする。それが再編により学校が無くなってしまうと、農地が荒れていくことは目に見えていると思う。 例えば、まちなかの学校に通う子どもに通学手当を支給し板荷に来てもらうことや板荷小中学校の給食を無償化し、板荷小中学校に来てもらうことなどはできないか。10月の計画策定では時間が足りないと思うので、もう少し長いスパンで進めていただきたい。 【回答】 意見として承る。
	【意見】 学校再編は板荷にとって重要な問題。若い人は学校があるから板荷に住んでいるが、なくなってしまったらまちに引っ越してしまうと思う。実際に、西大芦では学校が閉校となり子ども達は戻ってきていない。 新たな学校を作るつもりでとのことであつたが、例えば、川化（カワバケ：板荷内の地区名）に新しく学校を作ってもよいのでは。 【質問①】 保護者アンケートを取って再編案を進めていこうとしているが、小中連携の模索など他の選択肢はないのか。板荷は小中連携ができる地域だと感じている。 【質問②】 小中学校の配置基準を教えてほしい。 【質問③】 板荷地区の一部では、日光市の落合中のすぐ近くに住んでいる方もいる。落合中との統合などは想定しているか。 【回答①】 保護者アンケートの結果、そういったニーズは確認できなかったため、今回の再編案を考えた。なお、保護者アンケートについては、保護者の意向を確認するために行ったものであり、その結果、多くの保護者が統合を望んでいるものと認識している。 【回答②】 配置の基準ではないが、学校再編にあたっては、始めに説明した通り「一定規模の児

	童生徒集団が確保されていること」、「経験年数・専門性・男女比率のバランスの取れた教職員集団が配置されていること」を踏まえた「適正な規模」を定めている。 【回答③】 市をまたいでの再編は考えていない。あくまでも、市内の学校間で適正規模となるような再編案を検討していく。 【発言者返答】 この案で決定ということか。 【回答】 決定ではない。あくまでもたたき台の段階である。
	【質問】 アンケートの対象者数は、小中合わせて何名か。 【回答】 小中学校全世帯を対象として、小中合わせて 23 の回答があった。 【発言者返答】 これから入学する世帯が対象に含まれていない。また、板荷の世帯数はそんな数ではない。23 の意見のみをもって、板荷の未来を決めていく再編案を作ったことは納得できない。 そもそも、このアンケートは行政が進めていきたい方向に誘導する目的を持った偏ったアンケートだと考えている。 板荷地区では、過去に水道に関するアンケートがあり、設問の内容が誘導したい印象を受けるもので、泣きを見た経験がある。 【回答】 補足となるが、未就学児については、保育園や児童館にアンケートを配布し、板荷地区では 2 件の回答をいただいている。
	【質問】 小学校の設置基準として、1 つの村に 1 校や小学 1 年生が徒歩で歩いていける距離に配置する、それが難しい場合は分校を設置するといった決まりがあったのではないか。 【回答】 現状、法律等においてそのような決まりは定められていない。適正な学校の規模は、国からも示されている。なお、学校の配置については、市の方針に基づく。 【質問】 板荷は人数が少ないので、遠く菊沢西小へ統合する案が示されているが、義務教育とは平等に受けられる権利があるのではないか。差別を受けている印象を受ける。必要な教職員や環境を整えるのが義務教育のあるべき姿ではないか。

	【回答】 板荷小では現在複式学級があり、小規模校との位置づけとなっている。一方で、東小では一学年に多くの学級数があり、教育の機会均等という考えでは、不均衡が生じていると考えられる。せっかくの多くの集団のなかで学べる機会を逃しているのではないか。 無論、小規模校には小規模校の良さがあることも認識しているが、不均衡を生じている状況を鑑み、子ども達に市内どこであっても同じ質の教育を受けられる環境を整えるための適正な配置を検討しているものである。 なお、教職員の配置については国で基準が定められており、学級数に応じた数となるため、市の判断で配置できるものではない。 【意見】 大規模校となっている東小から板荷小に来てもらえばいいのではないか。こちらが向こうに行く案があるなら、向こうがこちらに来てもいいのではないか。それが平等である。 【回答】 その結果、適正な規模が取れるかを判断できない。栃木市の事例では、4つの学校を小規模特認校として大きな学校から子ども呼んでくる制度を行っていたが、そのうち2校については人が集まらず、うち1校は統合した状況であった。
	【意見】 東小でもアンケートを実施してほしい。 【質問】 同じアンケートは、市内すべての小中学校ですでに実施済みである。その中には、小規模校に行きたいという意見は出ていなかった。 【発言者返答】 あのアンケートでは意味がない。設問に「小規模校に行きたいか。」という項目があるものを望む。
	【意見】 板荷地区の人口が減り学校が無くなってしまうことは非常に残念。逆に増やしていけるような対応はないか。 板荷には、自然体験交流センターがあり、そういう環境で学びたい子もいるのではないか。そういった声を拾うアンケートを実施してみてもいいのではないか。 【回答】 アンケートについては、検討する。
	【意見】 マンモス校などの人数の多い学校には、多いゆえの弊害があると思う。自身も落合中の出身だが、板荷に比べ人数が多く、失敗したと感ずることがある。 板荷の子どもたちは、小さい学校でのんびり過ごしており、全員が挨拶をきちんとできる素晴らしい子ども達である。大規模校では絶対あり得ない。

	まちなかへ統合する一方的な流れだけを考えるのではなく、田舎に移動してくることも考えてほしい。
	【意見】 大規模校や小規模校などの基準をなくせばいいのではないか。統合に賛成は賛成だが、基準があるから小規模校が適正規模に統合するという一つの選択肢しか出てこないのだと思う。スポ少も別の学校から混ざってやっているところも聞くので、規模などの基準は決めなくてもよいと考える。
	【意見】 板荷では、地域が学校をものすごく支えている。敬老会を中学生が主催しているところは他にない。廃品回収や運動会、授業も昔から地域と小中が連携してやってきた。特認校としてどうにか残せないか。 また、大規模校などの人数の多い学校では、いじめなどの問題も多く起こるので、板荷の子が人数の多い学校に行きいじめにあって不登校になる可能性もある。
	【意見】 自身も落合地域の学校に通っていた過去がある。行政として、行政区の括りがあることは理解できるが、板荷畑の地域は落合地区との交流が多く、そういった地域の特性も視野に検討していただきたい。 【質問①】 今後のスケジュールについて、必要に応じ検討協議会を設置とあるが、メンバー構成や設置基準があればお示しいただきたい。 また、統合準備委員会設立とあるが、「統合」という言葉は吸収合併されるような印象を受ける。別の表現にしていきたい。 【質問②】 新しい学校を作るイメージとのことだが、校歌や校章などは新しいものを作る想定か。 【回答①】 地域検討委員会については、計画策定後に地域の理解が得られず合意形成が取れない場合に設立するものであり、保護者や地域の方に入っていただき、統合の方向性について検討していく役割となる。 人員構成については、地域の保護者の数や地域代表者の数を考慮し、バランスを見て考えていく。一方の考えだけで検討を進めていくものではないことをご理解いただきたい。 「統合」という言葉については、他市では「設立」と置き換えている事例もある。ご意見として承る。 【回答②】 その通り。統合準備委員会において、学校の名前や校歌、校章等を決定していく。併せて、学校の中の決まりやどういった教育をしていくか、地域とどう関わっていくかなど様々なことを一から検討し、2年間をかけて新しい学校のスタートにむけてすり合わせを行って

	いくイメージである。 【発言者返答】 地域検討委員会を設立する判断は行政が行うのか。 【回答】 その通り。基本的には、保護者や地域住民からまとまった形で賛成できないような意見が出されている状態では、同意形成はできていないと捉え、再度説明の場を設ける。それでもご理解いただけない場合、検討委員会で方向性を再度検討していく流れ。 【質問】 地域住民向けの意見交換会について、板荷は何か所目か。 【回答】 1か所目である。保護者及び学校運営協議会委員に向けた意見交換会は、市内10の中学区ですでに実施済みであり、当日の記録はHPに掲載させていただく。 【意見】 学校運営協議会をうまく活用していただきたい。 2月27日の意見交換会で初めて骨子が示されたことは乱暴だと感じ、当日の意見交換でもその旨を発言した。他の地区はわからないが、板荷地区ではきちんと地域との意見交換を交えながら案を練っていったほしい。 生徒数の推移については、我々も認識している。外から入れることなども含めて、コミセンを通してでも地元との調整をきちんとやってもらいたい。 【回答】 ご意見として承る。 なお、骨子はあくまでもたたき台として示しているもの。また意見を頂戴したい。 【意見】 板荷には、あんば様を初めとして、小中合同運動会など他の地域にはない行事や文化がある。先の発言にもあったとおり、他の地域から子どもを呼び、板荷の文化に触れてもらうこともあっていいと考える。 【意見】 自身も板荷の環境が好きで、市街から越してきた者である。宇都宮市の城山西小では、学外から子どもが来ており、地域の人口が増え、活性化につながっている。そういった環境を、教育の立場からも作っていただきたい。 【意見】 市では、西北部の振興に力を入れているが、学校をなくしては振興もないのでは。 また、6月までに市内全15地区を回って説明会を行うとのことだが、これをもって「全地区へ説明済みだからこれで計画を進めます。」ということにはならないか。 【回答】 意見交換会は、地域や保護者の皆様からご意見を伺うために行っているものであり、
--	---

	今示している骨子が決定ではない。ご意見をもとに今後検討していくことが目的である。 【意見】 本日の意見交換会では、「賛成」との発言がなかったこと認識いただきたい。 【意見】 一番心配なのは、児童に対するアンケートがなく、再編により児童が左右されてしまう可能性があることである。今は横と縦の繋がりで、同級生も上級生も良好なコミュニケーションを取っているが、再編による子ども達へのメンタル面のケアはしていただけるのか。 西大芦小では、再編により不登校になった子の話も聞いた。栗野地区では中学校が一校しかなく、そこへ様々な地区から子どもが来ているので不登校が多いとも聞く。 【回答】 統合する場合、現役世代の保護者や子どもを考えて準備を進めていく。また、子どもへのケアとして、元居た学校の先生を統合校へ異動させるなどの配慮を行っていく。 【意見】 自身は川崎から板荷に越してきた。板荷には、昔から地域にいる方と自分のように首都圏から越してきた人がおり、考え方はみんな違う。そういった地域性をまず考えねばならないと思う。 小中一貫教育も一つのいい案だと思う。首都圏でも小中一貫教育を施しているところが増えており、今の骨子案以外の方法も考えながら進めてほしい。 【質問】 「意見として承る。」とのことだが、それを検討した結果は地域に示してもらえるのか。 【回答】 回答をいつまでにというのは明確にお伝え出来ない。本日ご意見をいただき、よく考えなくてはならないと認識しており、再び話合いの場を設ける必要を感じている。 ～事務局から事務連絡～ 1.いただいた意見は、全地区終了後、個人情報に配慮した形で HP 上に掲載させていただく。 2.今後のスケジュールとしては、6月までに全 15 地区の地域住民向け意見交換会を実施し、7月からはいただいた意見を踏まえた検討、9月にパブリックコメントの実施、10月に計画策定を目指している。 計画策定後は、改めて地域に訪問して説明を予定している。 <閉会>20:46
配布資料	・学校再編の目的 ・小中一貫教育について ・鹿沼市小中学校再編計画骨子及び鹿沼市の小中学校の配置図 ・アンケート用紙